

福祉避難所不足について

大高青空 篠崎新 高田輝 戸梶あかり 指導者：大熊宏

①研究の背景

【福祉避難所の研究を始めた理由】
宇和島市では、今後数十年以内に最大マグニチュード9.0以上の地震が起こることが予測されているにもかかわらず、現在の宇和島市での地震対策、特に福祉避難場所の不足が危惧されているから。

【そもそも福祉避難所とは】
一般的な避難所で生活することが困難な高齢者や障害者、妊婦などを医療機関や介護保険施設等に入院、入所するに至らない程度の在宅の要配慮者を受け入れる第二次避難所のこと。この施設が不足していれば災害時の混乱の発生が目に見える。

②宇和島市の現状

宇和島市の福祉避難所

宇和島市の福祉避難所 30か所
想定収容人数 410人
福祉避難所対象者 3471人
約11.8%の人しか利用できない
(福祉避難所の大半は高齢者施設を利用する)

また、実際に災害が起きた時に土砂災害や津波などにより一部利用することのできない避難所があるのでさらに不足する可能性が高い。
これらのことから、宇和島市の福祉避難所は明確に不足しているといえる。

参考：<https://www.pref.ehime.jp/page.14921.html>

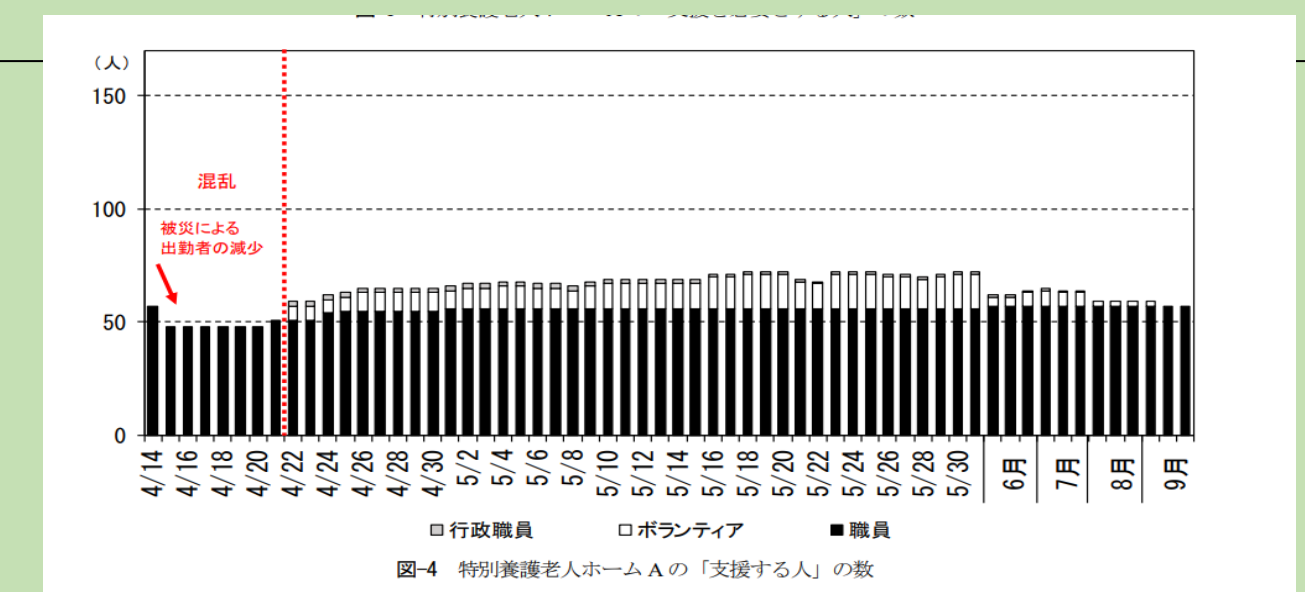
③今わかっていること

★Case1 高知県南国市

福祉避難所数：16施設 収容予定人数：1102人 福祉避難所対象者数：539人
 $1102 - 539 = 563$ （人）
なぜ収容施設を十分確保できるのか⇒近隣2市1町と協定を結んでいる
知的・発達障がい者対象の広域施設を確保
補助金総額260万円 補助率10/10

★Case2. 熊本地震

被災維持福祉避難所活用が困難
⇒役員被災による人手不足など



【対策】職員が被災した際いち早く施設に来られるよう、家族ごと避難できるスペースを施設内に確保

④これから

宇和島市の福祉避難所数を増やすために...

高校生だけでは難しい
⇒大人の力や、周りの学校、市と連携する
実際に南予コンソーシアムに参加した際、ほとんどの高校生が目的達成のために企業などと連携しているということを聞いた！

宇和島市災害j事前復興会議に参加する

⇒宇和島市が被災した場合復興には福祉避難所の存在が不可欠であるということを実際に主張